

救急法各地で出前講座

神戸国際大

神戸国際大学(神戸市東灘区)の「神戸国際大学防災救命クラブ(DPLS)」は2009年に創部。人工呼吸や心臓マッサージ、自動体外式除細動器(AED)といった救急救技術の普及に取り組む。

「一人でも多くの命が助かる社会



消防団の一員として放水訓練に取り組む長渡咲季さん(左)と鈴木希奈さん。神戸市東灘区(神戸市消防協会提供)

を」と、部員79人中29人が救急法などの指導ができる応急手当普及員資格を取得。学内のほかに、東灘区内の中学や高校、ボーイスカウトなどで出前講座を開く。

心臓マッサージを教える際は、単3電池を提示して「この長さが胸部を圧迫する時の深さ」と説明するなど、分かりやすさを心掛ける。「心臓マッサージをしないといけないと知ってはいるけれど、実際に行動できる人は少ない」と副部長で3年の長渡咲季さん(21)は話す。

大学のある六甲アイランドの消防団に入団する部員もあり、毎夏の訓練では、小型ポンプで給水から放水までを練習する。

消火や消防への通報、担架での搬送方法などについて「方法を知っているからこそ落ち着いて行動できる」と3年の鈴木希奈さん(21)。同様に団員の長渡さんは「救急法や救命への意識を確実に上げたい。いざというときに動ける人が増えれば、助かる命が増える」と力を込めた。